

## 【令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について】

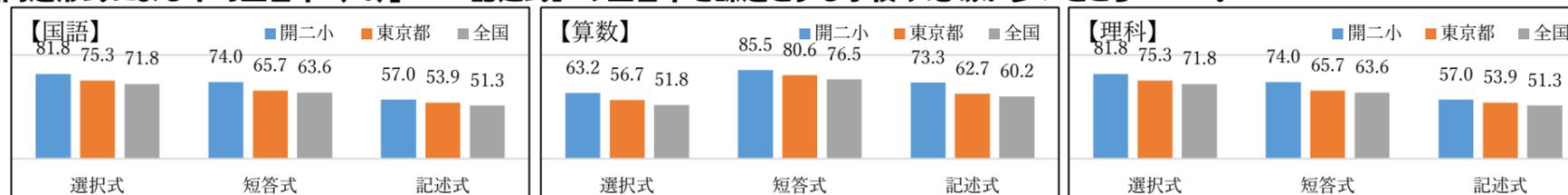
令和4年4月19日に実施した全国学力・学習状況調査では、3教科（国語・算数・理科）すべてにおいて東京都の平均正答率を大きく上回る結果となった。全体の傾向として、記述式の問題形式の正答率が高くなっているのが要因である。また回答内容について「思い込み」や「自己判断」に起因する誤答が見られる。落ち着いて答えたり論理的に考えたりするために、自分の考えを整理して表現することが肝要である。

### 【各教科の平均正答率 (%)】 (参加児童数：86名)

	国語	算数	理科
開二小	75	74	70
練馬区	69	68	66
東京都(公立)	69	67	65
全国(公立)	65.6	63.2	63.3

参考：国＝秋田71%、算＝石川69%、理＝秋田71%

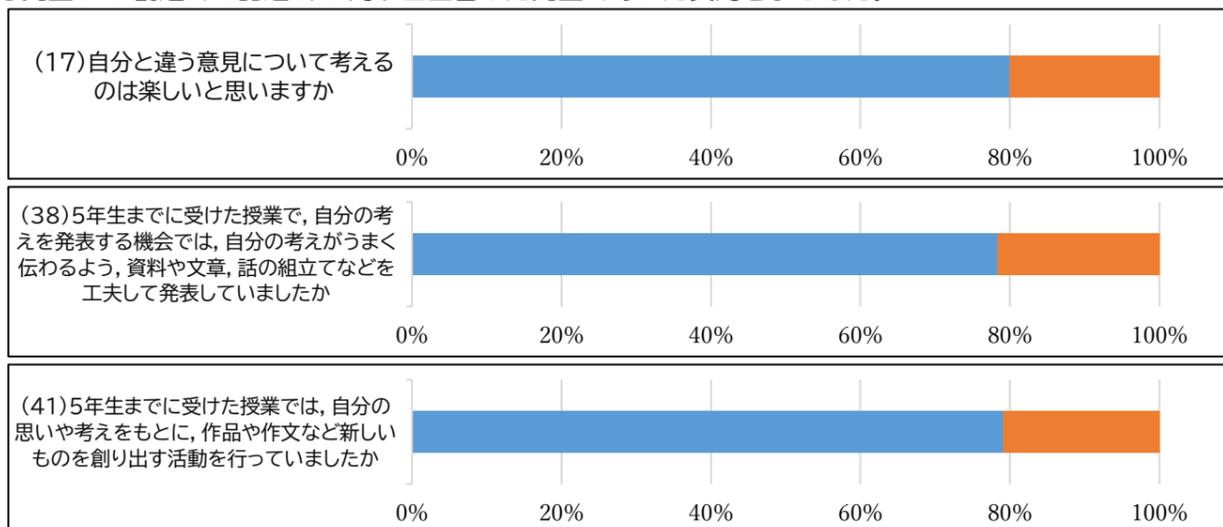
### 【問題形式による平均正答率 (%)】 「記述式」の正答率を課題とする学校や地域が多いところ・・・



※どの区分も都平均正答率を上回っている。記述式がこれだけ上回る結果は開二小の特色。特に国語・理科に比べ、算数が大きく伸びている。

### 【記述式に着目したクロス分析】 (国語＝3問、算数＝4問、理科＝3問)

記述式正答数が6問以上の児童数(青)と5問以下の児童数(赤)に分け、児童質問紙を肯定的に回答している(「よくできる」「できる」と回答)傾向について集計した。質問に対して肯定的に回答している児童の8割近くが記述式6問以上正答した児童であった質問をまとめた。



上記のほかにも、次の質問で8割近くの児童が記述式6問以上正答している。  
 (40)5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。  
 (57)算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか。  
 (65)理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思えますか。

#### 【記述式で解答できる児童を育成する授業改善のポイント】

- ① 自分とは異なる意見について考えるために、協働的な学びを増やす。
- ② 自分の考えを文章にして発表したり、書いてまとめたりする場面を作る。
- ③ 創造することの楽しさや学習は必ず役に立つという実感をもたせ、意欲を高める。

### 【各教科での特質した結果】

#### 【国語】

無解答率をみると、問題の終わりになるほど、増えています。記述式解答を考えすぎて、時間が足りなくなったことが考えられます。

問題番号	無解答率
2-三	3.5%
3-一	4.7%
3-二	11.6%
3-三ア	11.6%
3-三イ	14.0%
3-四	15.1%

#### 【授業改善のポイント】

- ① 考える時間を自分で決める場面を作る。
- ② 見通しをもって、考えのポイントを把握する。

#### 【算数】

設問③-①

遊び	ビンゴ	クイズ	宝探し	しりとり	合計
票の数	17	13	12	ア	48

表の中の「ア」に入る数を求めます。  
表の中の数を使って、求める式を書きましょう。また、答えも書きましょう。

児童の正答率は、75.6%。解答類型で、10.5%の児童が、6と解答しながらも式で誤っています。「表の中の数」を使わず、一部、暗算した数で立式したと考えられます。

#### 【授業改善のポイント】

- ① 何を問いている問題かを理解し、素直に答える意識をもつ。
- ② 表したことについて、問題内容とあっているか見直す。

#### 【理科】

児童の正答率において、東京都の正答率を下回っているもしくはほぼ同じ設問は、4問。

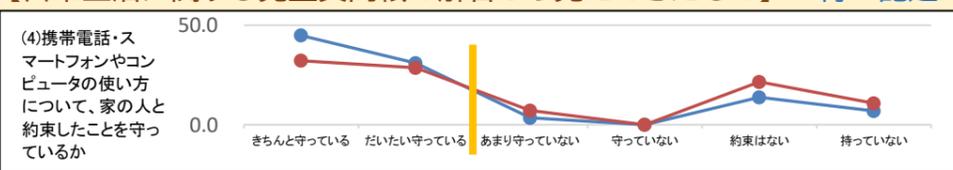
- 1-(3) ナナホシtentウムシが昆虫であることを説明する写真(絵)を選ぶ。
- 1-(4) 表の中(昆虫の絵4つ)に、カブトムシ(絵で示している成長過程)はどこに加えればいいのか。
- 2-(2) 図にある水の量に、50mLはかり取るためにあとどれだけの水を入れるとよいか。
- 2-(4) 砂糖水を凍らせたものは、紅茶に入れると沈みました。・・・

どの設問についても、設問も文章の内容と絵(図)を見比べて考えて解答します。解答類型では、勘違いや思い込みと推測される解答が多いです。自分の考えたことを、筋道が通っているか確認する必要があります。

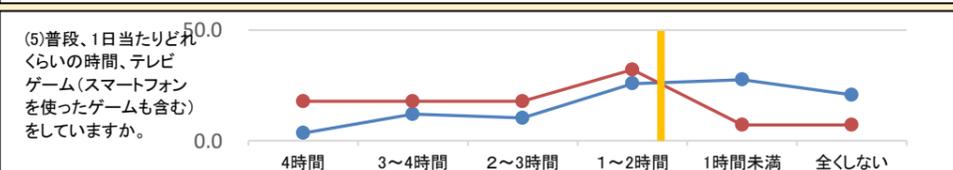
#### 【授業改善のポイント】

- ① 問題の文章内容を十分に理解して何を問いているか確認し、その視点で絵や図を見て考える場面を増やす。
- ② 目の前に起きている事象について、観察や実験などで使っている言葉を使って説明する機会を作る。

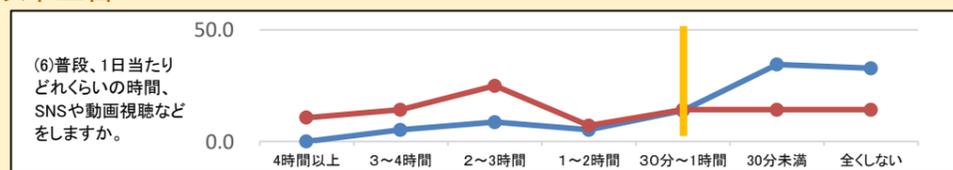
### 【日常生活に関する児童質問紙の解答から見てきたもの】・・・青＝記述式6問以上正答、赤＝記述式5問以下正答



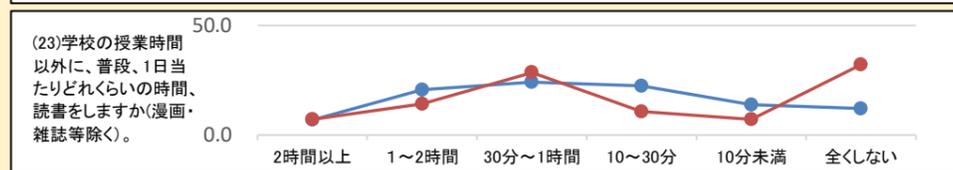
携帯電話やスマートフォン等の使い方について、家の約束を守っている児童は、記述式の正答率が高い。



1時間以上テレビゲームをしている児童は、記述式の正答率が低い。



SNSや動画視聴を30分以上している児童は、記述式の正答率が低い。



読書と記述式正答率の相関がみられませんが、適度な時間の読書が必要なことはわかります。

